



## 「優しさ」とは

校長 金泉 隆一

とても寒い日でした。バス停からいつものようにバスに乗りました。バスには座る席はなく、私は前方の乗降口の反対側に立っていました。車内は暖房が効いていて、外の寒さを忘れるほどでした。

間もなくバスは東京医科大学前に着き、そこでは多分、病院からの帰りでしょう、どっと多く人が乗り、あっという間に満員になってしまいました。

立ち並ぶ人の熱気と暖房とで、先ほどの心地よさは一度になくなってしまいました。バスが静かに走り出した時、後方から赤ちゃんの、火のついたような泣き声が聞こえました。私には見えませんでした。ギュウギュウ詰めバスと、人の熱気と暖房とで、小さな赤ちゃんにとっては苦しく、泣く以外方法がなかったのだと思えました。

泣き叫ぶ赤ちゃんを乗せて、バスは新宿に向かい走っていました。バスが次のバス停に着いた時、何人かが降り始めました。最後の人降りる時、後方から、「待ってください。降ります。」と、若い女の人の声が聞こえました。その人は立っている人の間をかきわけるように前の方に進んできます。その時、私は、子供の泣き声がだんだん近づいて来ることで、泣いた赤ちゃんを抱いているお母さんだな、と分かりました。そのお母さんが、運転手さんの横まで行き、お金を払おうとしますと、運転手さんは「目的地はここですか？」と聞いています。その女性は気の毒そうに小さな声で「新宿駅まで行きたいのですが、子供が泣くので、ここで降ります。」と答えました。

すると運転手さんは「ここから新宿駅まで歩いてゆくのは大変です。目的地まで乗って行って下さい。」と、その女性に話しました。

そして、急にマイクのスイッチを入れたかと思うと、「皆さんこの若いお母さんは新宿まで行くのですが、赤ちゃんが泣いて皆さんにご迷惑がかかるので、ここで降りると言っています。子供は小さい時は、泣きます。赤ちゃんは泣くのが仕事です。どうぞ皆さん、少しの時間、赤ちゃんとお母さんを一緒に乗せて行って下さい。」

と、言いました。私はどうしていいか分からず、多分皆もそうだったと思います。ほんの数秒かが過ぎた時、一人の拍手につられて、バスの乗客全員の拍手が返事となったのです。若いお母さんは、何度も何度も頭を下げていました。

このお話は、何年か前に新聞でも話題になったできごとで、中学校の道徳の教材にもなっています。

この運転士さんの話によると、普段から乗務員として乗客のみなさんの様子をよく見て、声をかけるようにしているとのこと。例えば、足の悪い方や杖をついているお年寄りが乗ってきたら「足元をよく見てください」「ゆっくりでいいですよ」とさりげなく声をかけ、停留所で「自分の乗るバスはこれで合っているのか」と迷っている様子の乗客の方がいれば「どこに行かれますか？」と一声尋ねるようにしているとのことでした。そして、

**「当たり前のことをしているだけで、特別今回わけがあって声をかけたわけではないのです。普通のことなのですよ」**

と話されたそうです。

この運転士さんのアナウンスから「相手の立場や気持ちを考え、相手を大切に作る心」を、「当たり前のこと」「普通のこと」という言葉から、本物の「優しさ」をもった方なのだと強く感じます。

この話から、今日、社会で起きている人間関係で生じる摩擦を少なからず軽減することになるのではないかと思います。もし、母親が「赤ちゃんが泣いて当たり前なのだから、なぜ周囲から白い目で見られなければならないの」と開き直ったとしたらどうだったでしょう。バスの中には反感こそ生まれ、母親をかばってあげようとは思わないと思います。

また、母親が降りると言ったとき、運転手さんがそのまま降ろしたとしたら…母親も含めて、本心からよかったと思える人は、いったいどれだけいたでしょう。後味の悪さだけが残ってしまったのではないのでしょうか。

赤ちゃんが泣きじゃくっていた時の乗客の思いは、様々だったと思います。しかし、母親とバスの運転手さんの言動にふれ、拍手というあたたかさの連鎖反応を起こしたのだと思います。「よいものは、よい」と、何の照れも邪心もなく行動に移すことができることは、とても素晴らしいことです。素直な心があるからこそ、本物のよさをあっという間に吸収することができたのでしょう。

私たち大人や子どもは、この話から何を学ぶことができるのでしょうか。

私は、権利ばかりを主張し、自分自身が向き合うべきことを他に責任転嫁しているようでは、『母親や運転士さん』のような心の通い合いを味わうことはできないと思います。互いの立場や心情を思いやることやみんなが少しずつ我慢を積み重ねることが、大事なのではないのでしょうか。

## 2月行事予定

日	曜	行事予定	相談室	かへいキッズ (年)	あいさつ当番
1	金	クラブ活動(3年生クラブ見学)	○	2~6	1-1
2	土				
3	日				
4	月	ゆきんこ読書旬間(~15日)		3~6	1-2
5	火	道徳授業校内研修(1-2のみ5時間授業) 1-1、1-3、2~6年は4時間授業	○	1・3・5・6	
6	水	冬の全校遊び 委員会活動 特別時程		1・2・4	
7	木	クラブ発表集会 パワーアップタイム 本は友だち集会(昼休み)		2~6	
8	金	特別時程 学力調査(プレ)	○	2~6	
9	土	土曜授業 1/2 成人式(4年) 地区別児童集会(3校時) なわとびチャレンジカップ		なし	
10	日				
11	月	建国記念日			
12	火	通学班登校(始)	○	1・3・5・6	1-3
13	水	4時間授業		1・2・4	
14	木	読み聞かせ集会 パワーアップタイム		2~6	
15	金	ゆきんこ読書旬間終 火起こし体験(3年) 通学班登校(終)	○	2~6	
16	土	女子サッカー決勝			
17	日	女子サッカー予備日			
18	月	個別登校再開 集金週間(~23日)		3~6	6-1
19	火	エンジョイタイム 火起こし体験予備日(3年)	○	1・3・5・6	
20	水	学校保健委員会講演会 14:45~15:45		1・2・4	
21	木	縦割り班お別れ集会 パワーアップタイム		2~6	
22	金	クラブ活動	○	2~6	
23	土	合唱・合奏研究演奏会(合唱団) 9:50~ 西新井文化ホール			
24	日				
25	月	あすチャレ!スクール 2018 ゴールボール(3・4年)		3~6	6-2
26	火	特別時程 保護者会(全学年)	○	1・3・5・6	
27	水	特別時程 委員会活動(5・6年生)		1・2・4	
28	木	音楽集会 パワーアップタイム		2~6	

## 生活指導部だより

### 2月の生活目標

寒さに負けずに体をきたえよう。

寒くなってくると、校庭に出たがらない児童が見られます。休み時間になったら外へ出て体を動かし、元気に遊びましょう。寒い季節は風邪をひきやすいので、部屋を換気し、外から帰ってきたら、うがいと手洗いをしましょう。また、室内では上着を脱ぎ、寒さに負けない体を作りましょう。

### 席書会について

国語科 佐藤 静香

1月9日(水)、10日(木)の2日間にわたり席書会が行われました。1・2年生は心を落ち着かせて硬筆、3～6年生は自分自身と向き合い集中して、毛筆に取り組んでいました。

席書会当日は冬休み中の練習の成果を出し切りたいという思いと、静かな雰囲気の中で握る鉛筆や筆に伝わる緊張と闘いながら、一人一人が真剣に取り組んでいました。1・2年生は、「正しく、お手本をよく見て」3・4年生は「一筆一筆丁寧に、文字の大きさに気を付けて」5・6年生は、「行の中心や字配りを意識して」一生懸命取り組む姿が見られました。

書初め自体は、四条天皇(鎌倉:第87代/在位1232-1242)の頃から始められたものと考えられているそうです。筆始め、試筆、試毫、試墨などとも呼ばれ、年が改まるごとに行われてきた大事な行事でした。また、地方によっては、小正月(1月15日)に書いたものを燃やし、炎とともに天高く舞い上がる様子を見て、書の上達、心の躍進を祈願したと伝えられています。

席書会を通して、何事に対しても自分自身の目標に向かって丁寧に・誠実に・全力を尽くすことのできるような豊かな心の成長につながる機会になればと思います。

### 図工室から

図工専科 佐々木 奈央

図工室に来たたくさんの子供たちが、「今日は何をつくるんですか!？」と聞いてくれて、とてもうれしい気持ちで授業がスタートします。活動中には、「面白いこと思いついた!」「こうしてみようかな…」「みてみて!」そんな声が聞こえます。このつぶやきが大切に、自分でたくさんのことを考え表現している姿だなと日々感じています。図工の時間は、全てのことを自分で決めていく時間です。色や形、材料や方法などを自分で選び判断して、自分の表現をしていきます。この自己決定の中で、様々な発見、表現を楽しめるように子供たちと一緒に頑張っていきたいです。

何時間もかけてつくった作品は、自分自身です。作品を、自分を大切にできる子供たちであってほしいと願っています。作品を持ち帰った際は、ぜひ作品についてのお話をお子さんとしていただければと思います。

### 中国からの学校参観者を迎えました。

教務部 三井 英明

1月17日(木)、中国の四川省の小学校から、子供たちが学校参観に来ました。小学生20名、引率の先生4名を含む24名が来校しました。来校を迎えたのは、1年生です。中国の国旗を準備し、旗を振りながら「你好(ニーハオ:こんにちは)」と声をかけました。3校時には、学校内の施設と授業を見学しました。1年生から6年生までの授業の様子を参観し、6年生の教室では、習字をしていたので、中国の子供たちにも体験してもらいました。4校時には、全校児童による歓迎集会を催しました。6年生の代表委員による司会と通訳で進行し、2年生と4年生からは、音楽会で演奏した曲を演奏し、3年生からは、運動会の時の表現「ソーラン節」を披露し、5年生からは、一人一人がおった「おり鶴」をプレゼントしました。歓迎の集会の様子から、日本の「様子」を感じ取ってもらえたようでした。給食時には、6年生と一緒に、ランチルームで会食し「好吃(ハオチー:おいしい)」と声があがり、中には筆談でコミュニケーションをとる姿も見られました。

この訪問を受け、中国の小学生たちが日本の様子を理解し、また、加平小学校の子供たちが来校者へのおもてなしの心と外国への理解を深めるきっかけになったのではないかと思います。お互いにとって、良い思い出になったことと思います。

### ～給食費について～

2月で給食費の引落しが最後となります。以下の金額を忘れずにご入金願います。

(1年生)3,800円 (2年生)3,910円 (3・4年生)4,220円 (5・6年生)4,430円

# 席書会

1月9日(水)、10日(木)



# 中国からの参観者の様子 1月17日(木)

